

中山間地域に居住する高齢者の生活交通の調査

広島大学大学院国際協力研究科 学生会員 ○山田敏久
広島大学大学院国際協力研究科 正会員 藤原章正
島根県中山間地域研究センター 正会員 藤山 浩
広島大学大学院国際協力研究科 正会員 森山昌幸
広島大学大学院国際協力研究科 正会員 岡村敏之

1. 研究の背景と目的

中山間地域は、過疎化と高齢化の 2 つの社会問題が同時に進行している。また、2002 年 2 月に施行された改正道路運送法により、路線バス事業の撤退が事実上自由となった。そのため、中山間地域の住民、特に高齢者の交通手段を確保することは、中山間地域での生活を維持するため、早急に対策を講じなければならない大きな課題である。

そこで本研究では、中山間地域で生活する高齢者の生活交通の実態把握をする上で必要な調査項目を抽出することを目的として、島根県飯石郡赤来町に居住する高齢者を対象とした交通実態ヒアリング調査を行った。赤来町は広島県との県境に位置する過疎化高齢化地域である。バス停まで 500m 以上離れている集落が全 54 集落のうち 24 集落存在し、公共交通機関のサービス水準が乏しい地域でもある。

2. 調査概要

赤来町の概況および世代属性を表 1 と表 2 に、調査概要を表 3、取得サンプル数を表 4 に示す。

調査は、平成 14 年 2 月 14 日（木）に、町内の所定の病院施設と買物施設に訪れた高齢者を対象として、ヒアリング式のアンケート調査を行った。

表 1 赤来町の概況

人口	3,422(男:1,651人, 1,791人)
人口増加率(平成7年より)	-8%
世帯数	1,147世帯
人口性比	92.2
1世帯当たり人員	2.98人

表 2 世代属性

0-14歳	15-64歳	65歳以上
13.5%	52.8%	33.6%

※表 1、表 2…平成 12 年国勢調査

表 3 調査概要

調査日時	平成14年2月14日(木)
	8:30~12:00, 15:00~17:30(買物施設のみ)
天候	雪
調査場所	頓原病院, 赤来町診療所 JAマーケット来島店, JAマーケット赤名店, サンノア

表 4 取得サンプル数

	男性	女性	総計
病院施設	13	12	25
買物施設	14	24	38
総計	27	36	63

単位:人

3. 調査結果

3.1.運転免許証の保有状況、普段の外出頻度

図 1 に運転免許証の保有状況を調査地点別に示す。男性は女性よりも免許証保有率が高く、外出目的別では買物の方が病院よりも免許証保有率がやや高い。

図 2 に男女別の普段の外出頻度を示す。買物施設に訪れた人は病院施設に訪れた人よりも外出頻度が多い。

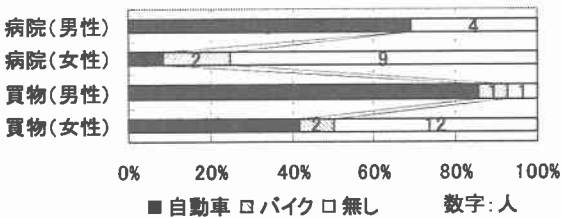


図 1 調査地点別の運転免許証保有状況

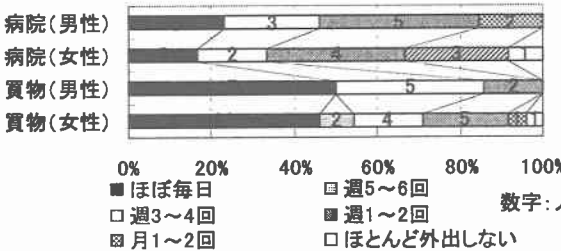


図 2 調査地点別の外出頻度

3.2.調査当日の外出手段

図 3 に目的地別の外出手段を示す。病院目的では送迎による訪問が買物に比べ多く、買物目的では徒歩と自動車による訪問が病院に比べ多い。移動手段についてみると、送迎を利用する人が往路と復路で大きく異なる。往路で送迎を利用した 8 人のうち、復路においても送迎を利用した人は 2 人であり、他の 5 人がタクシー、1 人が徒歩により帰宅している。

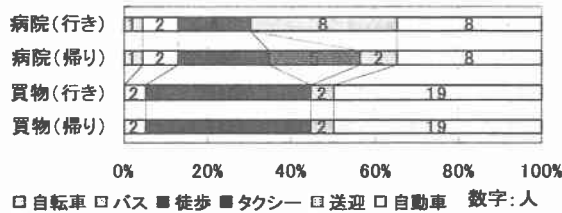


図3 目的地別移動手段

3.3. 病院施設における待ち時間

図4, 5に、病院施設での各個人の診察開始までの待ち時間と、診察終了後から帰宅を始めるまでの待ち時間について、それぞれの理由を示す。診察が始まるまで待つ理由には、送迎者の都合によるものと診察順番の確保のためによるものが最も多く、帰宅を始めるまで待つ理由には、バスの待ち時間のためと薬受け取り待ちのためが最も多くなっている。

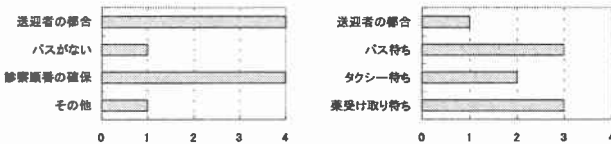


図4 診療開始待ち理由

図5 帰宅開始待ち理由

3.4. 町営バスの利用状況

赤来町では、町営の路線バスが運営されており、4路線でそれぞれ2~5往復が運行されている。図6に外出目的別の町営バスの利用頻度を示す。病院に訪れた人でバスを利用したことのある人は、買物に訪れた人の場合よりも多い。

図7に運転免許証保有別の町営バスの利用頻度を示す。免許証を保有している人の9割以上が町営バスを利用していないのに対し、免許証を保有していない人の半数以上は、少なくとも1度は町営バスを利用している。

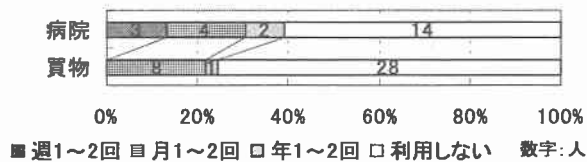


図6 外出目的別町営バス利用頻度

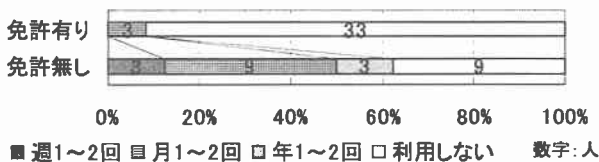


図7 免許証保有別町民バス利用頻度

4. アクティビティの時空間パス

図8に、ある被調査者のアクティビティを示す。今回の調査では簡易なアクティビティ表を作成し、被調査者の自宅を出て家に帰るまでの一連の活動と移動について調査した。この被調査者は自宅から病院までは家族による送迎で移動しているが、帰宅時は送迎者の都合またはバスダイヤの都合等により、タクシーを利用せざるを得なくなっている。また、往路を送迎者の都合に合わせたため、診察時間まで約1時間も待たなくてはいけなくなっている。もし、送迎者のその日の予定が把握できれば、復路で送迎に来ることができない理由が分かり、さらには送迎が出来るような活動の調整が可能になるかもしれない。公共交通サービスへの依存度が高い高齢者の移動抵抗を除去できるような施策を立てるためには、高齢者のみでなく高齢者の家族を含んだ世帯での交通実態の把握が必要である。それらは、各活動の詳細(活動場所、活動時間、活動内容等)、また各移動の詳細(移動手段、移動時間、移動場所、移動経路等)などの、時間的、空間的な活動・移動記録を各世帯員について調査することで把握が可能である。

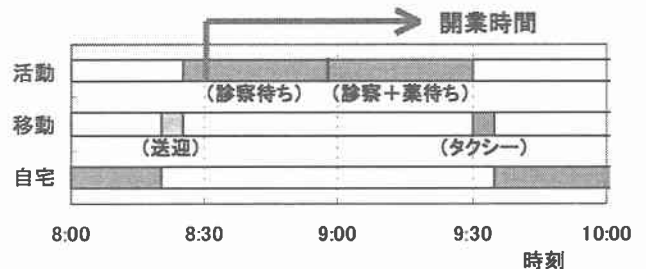


図8 アクティビティの時空間パス

5. まとめ

調査当日は雪に見舞われ、交通に対して不便を感じている高齢者が外出を控えるような状況であったが、高齢者の交通実態について概ね把握することが出来た。公共交通サービスが低い中山間地域での高齢者の移動は、他の世帯員の制約が大きく関わっており、世帯での時間的、空間的な生活・交通行動を把握することが、今後の対策を立てる上で重要である。

謝辞

今回の調査に当たり、島根県中山間地域研究センターおよび赤来町生活課の方々にご協力をいただいた。ここに謝意を表す。